

# 第1回高等学校生徒募集定員に係る公私比率等検討部会 (3月15日)の意見概要

## 1 内容

部会の設置趣旨や経緯、募集定員総数の策定手順について確認後、募集定員と公私比率の推移、中学3年生の進路希望、中学校卒業者の進路状況の推移等を資料として、平成30年2月に当部会が示した提言をふまえたこの3年間の状況について協議を行いました。

## 2 主な発言内容

### 【進路保障の観点】

- ・ 三重の子どもたちのためにどのような教育がよいのか、環境がよいのかについて、県民の理解が得られるよう県立、私立がともに建設的な議論をしなければならない。
- ・ 通信制高校は、オンラインでの活動をうまく取り入れ、子どもたちのニーズに合わせて効果的な活動を進めていることにより、需要が高まっている。全日制高校は、対面でしかできない活動を強みとし、特色ある取組や活動をより進め、学校の魅力を高めていくことが必要である。
- ・ 県立、私立を問わず、子どもたちがどこで学びたいかを大切に議論を進めたい。また、県外や通信制への進学を選択する生徒が増加している状況をふまえ、生徒のニーズを捉え、県内の高校の一層の魅力化を図ることが重要である。
- ・ 12月の進路希望調査は、学校説明会などを通して高校について理解し、学校の進路面談などを経て自分の進路をしっかりと考えたうえでの最終的な進路希望が反映されている。これらの希望を実現するために募集定員を策定することが必要である。
- ・ 地域によって学校数や規模、生徒数などの状況は異なっていることから一律の規準で地域間を比較することはできない。県立高校と私立高校が今後も公教育を担っていくために何をしたらよいかという議論をすべき。

### 【保護者の視点】

- ・ 県立は定員が減ってきているのに、私立はなぜ減らないのかという思いがある。提言にある「県民の理解が得られるように」とは、なっていないのではないか。
- ・ 私立高校の授業料実質無償化の影響はどの程度あるのかという点もふまえながら議論を進める必要がある。保護者にとっては、受験料や入学時の一時金も負担となっている。

### 【中学校の視点】

- ・ 7月の進路状況調査から12月の進路状況調査の間に大きな開きがあることについては、7月まで生徒は部活動に没頭していて、夏以降に学校体験や説明会を経て、それから自分の進路について考え始めることも要因である。

進路決定に際しては、通学方法や通学時間、部活動も大きな要素である。

### 【私立高校の視点】

- ・ 人口減少期に入り定員を減じていく中で、学校を閉じるということについて、県立高校は何校かの1校を閉じるということだが、私立高校の場合は、1事業所を閉じる、つまり廃業ということになる。私立高校が果たしてきた役割を認め、民間活力の活用という意味においても、私立高校の存続に理解を示して欲しい。
- ・ 生徒数が減少する中、公私比率が現行のままであるとすると、私立高校にとっては大変厳しい。県北部では、私立の比率が比較的低いので、他地域よりも厳しい状況にあると思う。また、地域ごとの方向性にある「やや高く」「やや低く」について、「やや」とはどの程度なのか、今後考慮しながら議論を進めてほしい。